



# 学校だより

第2号 ジャカルタ日本人学校  
令和8年(2026年)5月28日  
校長 本川 里美

教育目標 「心豊かでたくましく主体的に生きる子の育成」

令和8年度学校が大切にしていること 「対話」自分の思いを話し傾聴する

子どもと子ども、教職員と子ども、保護者と教員、教職員同士、親と子

## 多様な個性を認め合いながら

校長 本川 里美

ジャカルタでは、乾季の訪れを感じる季節となりました。子供たちはJJSの大きな行事である体育祭の準備も少しずつ始まりました。学校生活の中で自分の役割をもち、人とつながる機会です。小学部、中学部が関わりあう大切な行事を子供たちとともに進めていきます。

先日、本校では小学部6年生が、インドネシアン ヘリテイジ ソサエティ スクールプログラムの方を講師にお招きして「インドネシアの民族」に関わる学びの機会がありました。インドネシアの文化や歴史、伝統に触れる中で、多くの学びがあり、よりインドネシアの文化を身近に感じたことと思います。

その中で、インドネシアの国章として知られる「ガルダ パンチャシラ」についてお話がありました。ガルダは、力強く空を舞う神鳥です。そして、その胸には多様な民族や文化、宗教をもつ人々が、「違いを認め合いながら一つの国をつくる」という願いが込められています。



ジャカルタ日本人学校にも、さまざまな経験や場所からの子供たち、教員が集まっています。日本各地から来た人、海外生活が初めての人、長く海外で育ってきた人。それぞれに違いがあります。しかし、だからこそ出会える学びがあり、広がる世界があります。

大切なのは、「同じであること」ではなく、「違いを認めながら共に歩むこと」だと感じています。

子供たちには、相手の話をよく聞き、自分の考えを伝え、対話を通して互いを理解していく力を育ててほしいと思います。そして、一人一人が安心して過ごせる学校、みんなで力を合わせて成長していける学校をつくっていきたくと考えています。

ガルダが大きな翼で多様な人々を包み込み、共に空へ羽ばたくように、ジャカルタ日本人学校も、多様な個性を認め合いながら、一つの学校として未来へ羽ばたいていきます。